

編 集 後 記

誌上ギャラリーは、「光に包まれて」曾木の滝のイルミネーションを池田敏郎先生からいただきました。大規模なイルミネーションがとても美しいです。

年末のご挨拶を、鹿児島市医師会副会長 池田 耕治先生、鹿児島市内科医会会長 濱崎 秀一先生、鹿児島市外科医会会長 下川 新二先生、鹿児島市小児科医会会長 山元 公恵先生、鹿児島市産婦人科医会会長 伊集院 吐夢先生、鹿児島市耳鼻咽喉科医会会長 牛飼 雅人先生、鹿児島市皮膚科医会会長 内宮 礼嗣先生、鹿児島市泌尿器科医会会長 角 純啓先生、鹿児島市脳神経外科医会会長 時村 洋先生から、各医会の今年の活動状況を投稿していただきました。各医会の皆さんが鹿児島市の医療を支えるために各領域で活動されておられることが良く解かりました。また、事務局長 中園 豊明様、臨床検査センター副センター長 刈屋 貴徳様、医師会病院事務部長 吉村 達也様、夜間急病センター事務長 福原 淳一様から、各施設における一年の振り返りを投稿していただき有難うございました。

令和7年度会員表彰については、学校医・園医永年勤続者8名と会員特別表彰者2名（八反丸 健二先生、浅野 庄三先生）が表彰されました。心よりお祝い申し上げます。

論説と話題は、令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（令和7年11月8日：盛岡）の報告です。シンポジウムの内容は別途、鹿児島市医師会勤務医会会長 年永隆一先生、副会長 丸山 芳一先生、帆北から報告いただきました。

「医療トピックス」は、第12回糖尿病性腎症重症化予防対策推進協議会（令和7年10月28日開催）「鹿児島市の糖尿病性腎症重症化予防について」と「国民医療を守るための総決起大会」（令和7年11月20日）の報告を池田琢哉理事からいただきました。

学術は、「当院腹腔鏡下手術におけるレミマゾラム麻酔とプロポフォール麻酔の術後悪心嘔吐（PONV）に対する効果の比較」を鹿児島市医師会病院麻酔科の鈴木 有希先生から投稿していただきました。レミマゾラム麻酔はプロポフォール麻酔と比較して、PONV抑制効果が弱い可能性が示唆されたとの結果です。

音楽の散歩道 - ベートーヴェンの「第9」200年記念 - 「パガニーニとその関連の話」を粟 博志先生から連載で投稿していただきました。絵画と音楽に非常に造詣の深い粟先生ならではの内容です。

リレー随筆は、「ウガンダの空の下で揺れた“当たり前”」を今村総合病院初期研修医の安田 幸志郎先生から寄稿していただきました。“アフリカを救う—そんな大きな夢を語っていた自分”を思い出されたようです。今後大きく成長されることを期待しています。

各種部会だより、各種報告は、御覧下さい。

鹿市医狂壇の兼題は「故郷（ふいさと）」です。楽しく読ませていただきました。来年も多数の投稿をお願いします。

今年も後わずかとなりました。国際・国内において様々な出来事がありました。医療従事者にとりましては、2025年も大変厳しい状況が続いております。2025年10月21日高市早苗総理大臣が誕生いたしました。国内外に向けて精力的に活動されておられ、医療・介護・福祉にこれまで以上に関心を示しておられます。令和7年度厚生労働省補正予算案の概要は <https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/25hosei/index.html> でご確認ください。来年度の診療報酬改定も少しは期待できそうです。鹿児島市医師会会員の皆様が健やかに2026年をお迎えされることを心より祈念いたしております。

（編集委員長 帆北 修一）